

2022年度 日本工学院専門学校											
放送芸術科											
演習 2											
対象	1 年次	開講期	後期	区分	必修	種別	実習	時間数	240	単位	8
担当教員	長浜和久 金井高広 草間巧			実務経験	有	職種	映像制作業務全般				
担当教員紹介											
長濱：放送業界で製作業務に従事していた ディレクター・プロデューサー 草間：放送業界でカメラマンをしていた TBSドラマ チーフカメラマン											
授業概要											
この実習を受講する学生は、ローテーション実習で各コースの基礎や本質を体験することで、自分自身の興味や適性を見出し、将来のビジョンを明確にすることができる。さらにすべてのコースの基礎も経験できる為、自分自身のスキルアップにも活かすことが可能となる。											
到達目標											
この実習では、どの職種が自分自身に合っていて、関心を持つことができるのかを、実際に機材を触り体験することで明確にすることが目標である。さらに、明確になった後はコース別に実習を行い「基礎・応用」を学び「技術力・問題解決能力・発想力」を身につけ、映像制作に活かせるようになることが目標とする。											
授業方法											
この授業では、コミュニケーションを養うために、チームで協力をする機会を多く作る。より多くの学生に映像制作の魅力や仕事内容を伝えられるように意識をしながら進める。初めから他のコースを選択しない決めている学生にとっても、基礎となる部分を分かり易く修得できるように心掛け映像制作に活かせる技術を学びます。 ※ローテーション実習は学生を6 班に分け、各コース5回行う。											
成績評価方法											
実技	50%	課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価									
レポート	25%	授業内容の理解度を確認									
平常点	25%	積極的な授業参加度、受講態度などによって評価する									
履修上の注意											
この授業では、学生間・教員と学生のコミュニケーションを重視する。授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会に出てからのマナーやコミュニケーションといったことも重視して授業を受けるように促す。（詳しくは、最初の授業で説明）授業出席率の注意を都度促す。ただし、授業時数の4 分の3 以上出席しない者は定期試験を受験することができない。											
教科書教材											
授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする											
回数	授業計画										
第1回	ローテーション実習(4) 音声基礎			音を録る基本。マイクの種類、機材について理解する							
第2回	音声収録について			実際に収録してみよう。室内と外の音の聞こえ方の違いを体験する							
第3回	MAについて①			MAとは何かを理解する。ナレーション録音を体験する							
第4回	MAについて②			音を編集するとはどういう事が理解し、体験する							
第5回	音声基礎のまとめ			音声基礎で修得してきたことの復習							

2022年度 日本工学院専門学校		
放送芸術科		
演習 2		
第6回	ローテーション実習(5) 編集基礎	編集コースの目標、PC教室のルール、編集技法、映像制作フローを理解する
第7回	Adobe Premiereの基礎	編集ソフト(Adobe Premiere)の基礎的な使用方法を理解する
第8回	Adobe Premiereの基礎	画像加工ソフト(Adobe Premiere)の基本的な使用方法を理解する
第9回	作品制作練習	編集ソフト、画像加工ソフトを使用して作品制作の流れを理解する
第10回	編集基礎のまとめ	編集基礎で修得してきたことの復習
第11回	ローテーション実習(6) 美術基礎	美術スタッフについて。美術用語、尺貫法、尺目盛と換算を理解する
第12回	パネル作り～木取り～骨の組み立て	パネル作りの基本の説明。工具、機械類の説明と取り扱い方を理解する
第13回	スタジオ機構の説明	スタジオの台組み、箱馬と平台の説明と関係。釘、パネル、サンプレートの取り扱い方を理解する
第14回	図面の種類、自室の平面図の作成	図面の種類、平面図図式、線の引き方を学び、自室の平面図を作成する
第15回	美術基礎のまとめ	美術基礎で修得してきたことの復習